馬場ひでゆきの活動日誌

No.48

12月議会の産業経済委員会で、私は、「伝統的酒造り」が世界文化遺産に登録されことについて質疑をしました。その概要を報告します。

新潟県は、日本酒の酒蔵数が日本一で、現在89蔵があります。今回の世界文化遺産登録により、国内消費の拡大や輸出拡大、さらには観光振興への期待が集まります。

その一方で懸念もあります。県内の酒蔵は、15年前は100を超えていました。現在は89。

酒蔵が減少した原因には、消費者の日本酒離れ、売上の減少、杜氏や蔵人の人材難、後継者難があります。そのため、次第に酒蔵が廃業を余儀なくされていきました。

清酒業界は需要が飽和状態とも言われており、国税庁は酒蔵免許を新規に認めることがないとも言われています。

「伝統的酒造り」の発展のためには、既存の酒蔵に頑張ってもらうことが必要です。

（馬場） 今回の世界文化遺産登録についての県の受けとめは？

（地域産業振興課長） 世界的に広く日本酒全体への関心が高まる中で、酒造りの技術が評価されたものであり、国内の日本酒、特に新潟清酒の魅力発信に繋げていく好機ととらえている。

（馬場） 事業継承が厳しいとも聞く。県としても積極的な対策を打つべきではないか。

（地域産業振興課長） 産地間競争が厳しさを増している。新潟清酒の振興に向けて一層の品質向上を図るとともに、地域の特色やストーリー性をＰＲし、ブランド力を高めていくことが重要、県としても県酒蔵組合や各酒蔵とも連携して取り組んでいきたい。

（馬場） 県でも部局間の枠を超えた取り組みをするべきではないか。

（地域産業振興課長） 産業労働部だけでなく、観光文化スポーツ部、農林水産部と一緒になって、新潟清酒の魅力に取り組んでいきたい。

高等学校縮減説明会
学校がなくなる？

12月19日、上越文化会館で県教委主催の「県立高校の将来構想（案）」策定の説明会が行われました。

県教委は、先月、中学校卒業見込み者数の減少を踏まえ、県立高校の数が令和7年度の86校から、16年度に22校減の64校にするとの構想案を示しました。

「上越」地域（妙高市、糸魚川市含む）の中学校卒業者見込み数は、令和7年度が２１１０人、16年度が１５５７人と予測されています。そのため、上越地域全体の学級数を現在の39学級から27学級に減少する計画になっています。

県の計画の主な特徴は、農業、商業、工業などの専門学科高校を統合し、複数の学科を持つ「産業高校」を設置する、定時制、通信制過程を発展させて「セルフデザインハイスクール」を設置するなどです。

会場からは、「ＣＭなどで知られている広域通信制高校の利用者が増えている中で、県立高校が同様のシステムを導入する意義があるのか」「今後の再編整備の具体的進行が不明確、自分の子どもの進学時にどうなっているのか不安」「一学級当たりの現行の生徒数を45人から30人に減らして学校の学級数を維持すればきめ細やかな授業ができるのではないか」などの質問や意見が出されました。

生徒数だけで安易に統廃合でよいという訳にはいきません。引き続き動向を注視します（荊木記）。

一日ごとに変わる妙高の雪景色。観ていてあきません。この日の朝は陽の光を浴びて薄ピンク色でした。

皆様にとって今年はどんな年だったでしょうか。この号が今年最後の発行となります。皆様の励ましの言葉を糧にほぼ毎週発行してきました。また来年も頑張って発行し続けますのでご笑覧ください！

講師　上岡直美さん・佐々木寛さん

避難について考える防災ワークショップ

原子力災害が起きたらあなたはどうする？

12月15日、市民検証委員会の主催で、「避難について考える防災ワークショップ」の集いが市民プラザで開催されました。

元新潟県避難委員会委員で環境政策の専門家である上岡直見さんがお話しました。

●県の被爆シミュレーションは住民の不安に応えない！

上岡さんは、県が実施する予定の東電柏崎刈羽原発で重大事故が起きた際の被ばく線量のシミュレーションについて、次のように批判しました。

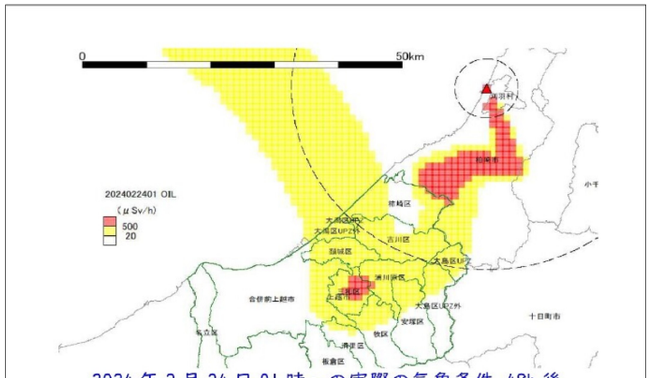
「県の避難委員会で被爆シミュレーションをやってほしいとお願いしてきた。県がようやくやると言い出したが、ふたを開けて見たら、過酷事故ではなく、福島の１万分の１のレベルでのシュミレーションだ。これでは再稼働前提と言われるだろう」

※　※　※

47号でも報告したとおり、県が実施するシミュレーションの前提となる被ばく線量は福島事故の１万分の１にすぎません。

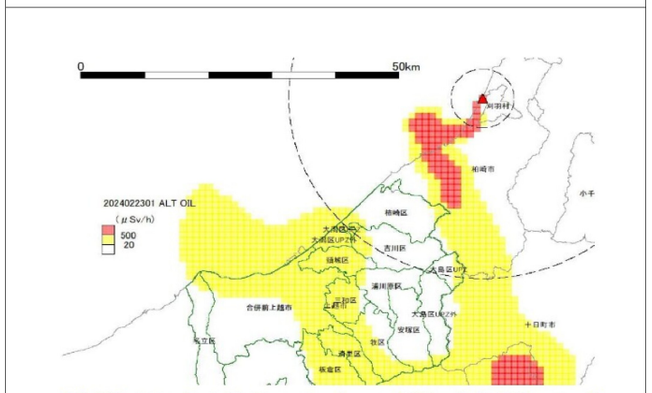
12月議会では、複数の議員が、福島原発事故並の過酷事故を想定するべきだと知事に対して追及しましたが、知事は、「避難計画に対する県民の皆さまの理解向上を図ることが目的」「過度な放射線のリスクを考えた避難というのは実効性のある防災計画であるとは言えない」と消極的でした。

しかし、県民は福島原発の規模の過酷事故が柏崎刈羽原発で起こったら、どのようになるのかということを知りたいのです。住民の不安に応えることが県の仕事だと思いますが、知事の姿勢は極めて不十分です。



2024年2月24日01時～の実際の気象条件 48h後
■ OIL1：避難　■ OIL2：1週間以内一時移転

17



［参考］2024年2月23日01時～の実際の気象条件 48h後
※30km圏を迂回して３０km圏外に回ってきた例
■ OIL1：避難　■ OIL2：1週間以内一時移転

18

●風向き次第で変わる放射性プルーム

上岡さんは、柏崎で原発事故が起こった場合の放射性物質の分布状況（放射性プルーム（※））をイラストで示してくれました。

右図上が２０２４年２月24日の気象条件で事故が発生した場合、右図下は、同年２月23日の気象条件の場合です。

赤、黄色がプルームの分布状態です。風などの気象条件次第では、ＵＰＺ圏外の板倉、清里などを通って直江津に行く可能性があります（右下図）。これが一年のうちで相当日数あるとしたら、避難計画を見直す必要もあるでしょう。

上岡さんは、「避難道路は建設するに越したことはない。しかし地域の車が一斉に出たら大渋滞となる」「屋内退避といっても家屋が壊れ〝遮蔽機能〟が失われては意味がない」と現在の避難計画についても批判しました。

（※）気体状または微粒子状の放射性物質が大気とともに煙のように流れる状態のこと。

コーシーBreak

（大島区「うしだ屋」でした忘年会）

ある人からの「橋爪さん（日本共産党上越市議）と飲むので、来ませんか」との誘いにのって、ジャンボタクシーに乗ってたどり着いたのが大島区のうしだ屋。

気温は氷点下、雪も降ってました。集まった仲間はうしだ屋のご主人も含めて8名。酒と料理を楽しみながら、国政、県政、市政までを語り合いました。

生まれ育ち、仕事、経歴、政治的な考え方、みんなそれぞれ違う。だけど、共通しているのは、みんな、この地元への愛が強いこと。それぞれがうんちくを語っているうちに、あっという間に3時間がすぎました。楽しかったです。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所　新潟県上越市本町３丁目３番３号
ダイアパレス高田弐番館２階
電話　０２５－５４６－７１１０
ファックス　０２５－５４６－７６６６
メール　kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp

昨年の県議選のときに上越市内を廻り、合併上越市は広いなあと思いましたが、今回「うしだ屋」に行ってあらためてそう思いました。上越市全部を隈（くま）なく廻りたい。←来年に向けた抱負です。